

地域別による女子学生の排便状況と健康への意識について

○樋口 寿* 佐藤玲子** 古崎和代*³ 岡田祥子*⁴ 平井和子*⁴(*大阪女子学園短大、**尚絅短大、*³ 札幌国際大、*⁴ 大阪市大)

【目的】便秘が大腸癌を初め種々の疾患と関連し、便通を改善することは健康維持に重要である。我々は大阪周辺の小学生から高齢者の排便状況や排便に関連する意識について報告し、女性は排便頻度が低く、便秘傾向は大学生に多いことを示唆した。そこで地域別に検討するために、仙台と札幌の女子学生について調査を行い大阪と比較検討した。

【方法】大阪、仙台、札幌の女子学生（各々 525 人、183 人、146 人）を対象に、1997 年の 11 月から 12 月にアンケート調査を行った。

【結果】“3食きちんと食べている”と答えた女子学生の割合は、仙台 65.1 %、大阪 52.5 %に対して、札幌 47.2 %と最も少なかった($p < 0.01$)。“便秘と健康に関連性がある”と答えた割合は、仙台 96.2 %、大阪 94.1 %で、札幌 92.5 %と地域差がみられた($p < 0.05$)。排便が週に 3 回以下の“便秘傾向”の割合は、大阪 24.9 %、仙台 24.0 %、札幌 24.7 %といずれも高く、“排便回数が不規則”は、大阪 17.0 %、仙台 21.9 %と比べると、札幌 29.5 %と多く、地域差が見られた($p < 0.05$)。排便時刻を比べると、“起床から朝食直後”は大阪が 40.1 %と最も多く、仙台 38.5 %、札幌 24.6 %であった($p < 0.05$)。又、3 地域で排便回数が多い程“起床から朝食直後”の排便が多く、排便回数が不規則の場合に排便時刻も不規則が多く、排便頻度と排便時刻とに関連性がみられた(各々 $p < 0.01$)。